

みやぎの

9月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.211 2024.9

紹介内容 (8/1~8/31)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技术の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 仙台農改：JA仙台斑点米カメムシ研修会が開催されました
 - 大河原農改：「ふくひびき」栽培講習会に参加しました
 - 大崎農改：清水地区法人化検討会のワークショップが開催されました
 - 気仙沼農改：いちご勉強会が開催されました
 - 石巻農改：加工用ばれいしょの収穫は順調！
 - 石巻農改：「暑さに負けない」ほうれんそう講習会
 - 石巻農改：JAいしのまきセリ部会の現地検討会で種セリをチェック！
 - 仙台農改：仙台市の新規就農者をサポート訪問しました
 - 石巻農改：いちご育苗現地検討会及び巡回指導会開催！

- ② 新たな担い手の確保・育成・・ 3
 - 石巻農改：若手女性農業者組織「ベジ☆Hope」の視察研修が開催されました
 - 亘理農改：みやぎ農業未来塾「第2回地域農業紹介講座」を開催しました
 - 美里農改：第2回美里地区みやぎ農業未来塾「農大先進農業体験学習に係る普及センター訪問」を開催しました
 - 登米農改：アグリレディーズネットとめの学習会を開催しました
 - 美里農改：美里地区農業士会の第1回研修会並びに通常総会、歓迎会が開催されました
 - 仙台農改：先進農業体験学習に先立ち普及センター訪問が行われました
 - 大河原農改：令和6年度仙南農業士会総会が開催されました！
 - 大河原農改：大河原町の農業者が県内法人への視察研修を行いました！

- ③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - 気仙沼農改：アグリテックアドバイザー派遣研修会を開催しました
 - 仙台農改：大衡村の法人でアグリテックアドバイザー派遣を実施しました！

- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・ 7
 - 気仙沼農改：JA新みやぎ南三陸地域花卉生産協議会の出荷目揃い会が開催されました。
 - 仙台農改：仙台市内で加工用ばれいしょが収穫期を迎え、掘り取りが始まりました！
 - 登米農改：JAみやぎ登米にら部会現地検討会が開催されました
 - 仙台農改：JA新みやぎあさひなねぎ部会現地検討会と若手生産者情報交換会が開催されました！
 - 石巻農改：トマト病害虫及び高温対策研修会を開催！
 - 気仙沼農改：大谷いも栽培講習会が開催されました
 - 大河原農改：出荷期を迎えポットマムの現地検討会が行われました
 - 仙台農改：Pear・カレッジ・リふの視察研修会が開催されました
 - 亘理農改：亘理名取りんご栽培研修会を開催しました

- 大河原農改：「若手果樹生産者の相互園地視察」を開催しました！
- 仙台農改：JA新みやぎあさひなぶどう部会で秋田県ぶどう生産者の視察対応を行いました
- 登米農改：加工用ばれいしょ収穫終了と管内生産者パッケージのポテトチップス販売
- 大崎農改：令和6年度加美郡りんご協議会先進地視察研修会
- 美里農改：「美里町北浦梨フェア2024」が開催されます！

⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

- 大崎農改：色麻町乾田直播研修会が開催されました
- 気仙沼農改：飼料作物展示ほの巡回検討会が開催されました
- 美里農改：管内各地区で大豆栽培現地検討会が開催されました
- 登米農改：高品質大豆の生産を目指して現地検討会が開催されました
- 気仙沼農改：米づくり推進気仙沼地方本部による水不足対策会議及び視察研修会を開催しました
- 登米農改：令和6年産大豆防除会議が開催されました
- 石巻農改：農地整備事業実施地区を現地視察 目標達成に向け連携強化！
- 登米農改：「良質米の敵！」斑点米カメムシのすくい取り調査を実施しました

⑥ 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

- 登米農改：令和6年度登米市畜産共進会が開催されました

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

- 登米農改：登米地区農村生活研究グループ連絡協議会グループ員研修会を開催しました
- 大崎農改：色麻町でえごま販売に係る講習会が開催されました
- 亘理農改：亘理町で地域計画策定に係る協議の場が開催されました
- 亘理農改：地域計画策定に係る話し合いが山元町で開催されました
- 気仙沼農改：地域計画策定に係る協議が開催されています
- 仙台農改：塩竈市寒風沢島の農業の維持・発展に向けて
- 仙台農改：米麴を使ったワークショップの開催について
- 仙台農改：地域計画策定推進に向けた情報交換会を開催しました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○JA 仙台斑点米カメムシ研修会が開催されました

令和6年8月1日
仙台農業改良普及センター



令和6年7月22日に、JA 仙台宮城支店において斑点米カメムシ防除対策研修会が開催されました。

近年斑点米カメムシの被害による落等が多くなっているうえ、7月19日に、病害虫防除所から「斑点米カメムシ類の注意報」が発表され、今年も発生量が多いと予測されています。今回の研修では、防除のタイミングや注意点などを普及センターから説明し、今年には特に出穂期が早まると予測されるため、穂揃期とその7～10日後の2回防除を計画的に実施することを伝えました。昨年も2回防除で対応している方が多く、防除意識の高さが窺われました。

また、JA 仙台から、前日に行ったすくい取り調査結果について報告されました。水稻の出穂前でもヒエやホタルイが残草しているほ場では、大型のクモヘリカメムシやホソハリカメムシ、小型のアカスジカスミカメなどが多数すくい取られており、防除の必要性を参加者で確認することができました。

カメムシの防除は、地域で一斉に防除することが重要であるため、JAの共同防除への参加も促しながら、カメムシ被害減少に向けてJAと協力して対策を進めていきます。

○「ふくひびき」栽培講習会に参加しました

令和6年8月2日
大河原農業改良普及センター



大河原管内では、約1,000haの水田で飼料用米が作付けされており、多収品種「ふくひびき」の割合が半分程となっています。

7月16日に『多収穫米「ヤマタネ萌えみのり」「ふくひびき」栽培講習会』が角田市枝野地区で開催され、当普及センターの職員が今年度の水稻生育状況及び「ふくひびき」の生育ステージの確認と追肥タイミング等について情報提供を行いました。

講習会では、今年度も高温・多照で推移しており、出穂が令和5年度並に早くなると予測されること、葉耳間長と幼穂長を確認した適切なタイミングの追肥が必要なこと、斑点米カメムシの発生量が多いと予想されるため主食用米では薬剤防除の徹底が必要なこと等を中心に情報提供を行いました。また、「ふくひびき」の種子生産ほ場においては、生産者と共に生育状況を確認し、幼穂を実際に観察することで、出穂時期の予測を行いました。

普及センターでは、今後も水稻生産者の所得の向上のため、飼料用米の栽培技術等のサポートを図って参ります。

○清水地区法人化検討会のワークショップが開催されました

令和6年8月2日
大崎農業改良普及センター



色麻町清水地区では、農地整備事業を契機に担い手への農地集積や高収益作物の導入を行うことにしており、清水集落営農組合を中心に地域営農体制の検討を進めています。

令和6年7月24日に、清水地区法人化検討会が開催され、集落のベテランから若手農家、女性など22人が出席し、「法人の設立目的を明確にしよう」というテーマで、ふせんを用いたワークショップ形式で行いました。

検討会では、4チームに分かれ、自分の意見をふせんに書いて貼りながら、他の人の意見を聞いて、各々の考えを共有しました。最後の投票と発表では、出された意見に拍手が沸き起こるなど、和気あいあいとした雰囲気での検討していました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携して清水地区の地域営農体制の検討を支援していきます。

○いちご勉強会が開催されました
令和6年8月8日
気仙沼農業改良普及センター



令和6年7月19日、気仙沼市階上地区でJA新みやぎ南三陸統括営農センター主催のいちご勉強会が開催され、生産者、関係機関等13人が参加しました。

始めに参加者全員で、各生産者の育苗ハウスを巡回し、育苗状況を確認しながら高温対策について情報・意見交換をしました。

現地巡回後、座学による勉強会が開催され、普及センターからは令和5年に多発したホコリダニ類の防除について、農業・園芸総合研究所からは他産地の栽培状況、高温期の管理方法について説明がありました。

参加者からは、ホコリダニ類の農薬の効果やパイプハウスの効果的な換気方法について質問があり、活発な意見交換が行われ、有意義な勉強会になりました。

今後も、関係機関と協力しながら、気仙沼いちごの品質・収量向上に向け、栽培管理、病害虫防除の巡回指導を行っていきます。

○加工用ばれいしょの収穫は順調！
令和6年8月9日
石巻農業改良普及センター



石巻地域では7月20日頃から加工用ばれいしょの収穫が始まりました！

今作は、雨の影響も少なく、生産法人の防除管理や追肥も適切に行われ、地上部の茎葉が最後まで青々としており、芋の肥大が進みました。

収穫作業も順調に進んでおり、8月2週目前後でほとんどの収穫作業を終える見込みとなっています。

ばれいしょの作期は4か月程度と短いですが、その中でも課題や改善点が見つかっています。来作は今作以上の収量や品質となるように、今後も支援を継続していきます！

○「暑さに負けない」ほうれんそう講習会
令和6年8月16日
石巻農業改良普及センター



令和6年7月23日に石巻市ホーレン草生産組合、7月31日にやもとほうれん草生産組合の栽培講習会が生産者と種苗会社、JAいしのみき、普及センター等出席のもと開催されました。

近年の課題である温暖化対策、例年の課題である排水対策や追肥、また新品種について各メーカーから情報提供がありました。

今夏もすでに猛暑の様相を呈しており、普及センターからは生産現場で使用されている被覆資材の違いによる生産への影響や今後の気象について情報提供を行いました。

普及センターでは、今後も石巻地域のほうれんそう生産を支援していきます。

○JAいしのみきセリ部会の現地検討会で種セリをチェック！
令和6年8月16日
石巻農業改良普及センター



令和6年7月31日にJAいしのみきセリ部会の現地検討会が開催されました。

現地検討会には、部会員とJAいしのまき、宮城県農業・園芸総合研究所等約20人が参加し、種セリほ場を廻り、現在の生育状況等を確認しました。一部雑草が見られるほ場があったものの、多くのほ場では病害虫や雑草の防除が適切に行われており、生育はおおむね順調でした。

9月の種セリまきまであと一か月となり、これからは茎葉を食害するモトグロヒラタマルハキバガやウイルスを媒介するアブラムシ類などの害虫に注意が必要となるため、改めて防除を呼び掛けました。

普及センターでは、今年も良品質な河北せりの生産を支援していきます。

○仙台市の新規就農者をサポート訪問しました 令和6年8月27日 仙台農業改良普及センター



仙台市内で新規就農し、農業次世代人材投資事業（経営開始型）又は新規就農者育成総合対策・経営開始資金の交付を受けている方などを対象として、サポートチームによる訪問を行いました。

資金の交付対象者に対しては、「経営・技術」、「営農資金」、「農地」の各課題に対応できるよう、市・JA・農業委員会・普及センターによるサポートチームで年1回以上訪問し、就農状況の確認等を行います。

今回は令和2年から令和6年に営農を開始した、露地野菜や果樹栽培などを行っている7戸の新規就農者を訪問し、栽培・経営状況の確認や、雑草防除等の栽培管理の指導、規模拡大等に関する今後の課題の聞き取りなどを行いました。

各農家とも、暑熱の影響に苦慮されておりましたが、自身の営農ビジョンに向かって、目の前の栽培管理等に励まれている様子が伺えました。

今後も新規就農者の営農を多方面から支援していただけるよう、関係機関と一丸となって取り組んでまいります。

○いちご育苗現地検討会及び巡回指導会開催！ 令和6年8月28日 石巻農業改良普及センター



令和6年8月6日に河南いちご部会、8日にやもといちご生産組合においていちご育苗現地検討会が、9日に石巻市苺栽培組合によるいちご育苗巡回指導会が行われました。生産者とJAいしのまき、普及センターで育苗ほ場を巡回しながら苗の確保や管理状況及び病害虫の発生等を確認し、今後の管理について検討を行いました。

前年は、8月の猛暑の影響で花芽分化の遅れやバラツキが見られたことから、定植時期の遅れや開花時期が揃わず年内の出荷量は例年より減少しました。

本年も猛暑が予想されることから、育苗中の遮光資材の利用や肥培管理及び病害虫防除について情報提供を行い、適切な育苗管理や花芽誘導ができるよう指導しました。

今後も定期的な巡回指導を通じて安定生産を支援していきます。

②新たな担い手の確保・育成

○若手女性農業者組織「ベジ☆Hope」の視察研修が開催されました

令和6年8月1日
石巻農業改良普及センター



石巻地域の若手女性農業者で組織される「ベジ☆hope」の視察研修が7月26日に開催されました。

「ベジ☆hope」は、平成24年度に石巻農業改良普及センターのプロジェクト活動を契機に設立された組織です。自発的な会の運営を目指して、会員の希望する視察や研修会を会員自ら企画し、資質向上と他の農業者等との交流を図っています。

今回の研修会では、桃生町中津山にある「社会福祉法人ふれあいの里 在宅障がい者多機能支援施設ラボラーレ」の施設見学と、同施設内にある農業部門の運営状況を視察しました。

農福連携の状況を実際に見ながら、施設の職員と

会員間で、利用者の方々と一緒に作業するのに適した栽培品目について意見交換をしたり、利用者と施設の職員で作っている手作りパンを購入させてもらうなど、貴重な経験となったようです。

○みやぎ農業未来塾「第2回地域農業紹介講座」を開催しました

令和6年8月5日

巨理農業改良普及センター



令和6年7月30日、みやぎ農業未来塾「第2回地域農業紹介講座」を開催しました。講座には、管内で先進農業体験学習（以下、体験学習）を行う宮城県農業大学校1年生9人が参加しました。体験学習は、農業大学校のカリキュラムの一環で、先進的な農業経営を実践している農業者の元で、農業技術や経営について学ぶものです。今年度の体験学習は9月9日から10月11日の33日間で行われる予定です。

講座の最初に、当普及センターから地域農業の概況と、農業大学校の先輩の就農事例を紹介した後、学生から体験学習に向けた決意表明をしていただきました。その後、各受け入れ農家を訪問し、事前学習を行いました。

訪問先では、学生たちが「体験学習ではどのようなことを学べますか？」、「品種選定はどのように行っていますか？」等、受け入れ農家に対して積極的に質問する等、学生たちの意欲的な姿勢がとても印象的でした。

当普及センターでは、今後も農業大学校と連携し、地域の農業を担う人材の確保と育成に努めてまいります。

○第2回美里地区みやぎ農業未来塾「農大先進農業体験学習に係る普及センター訪問」を開催しました

令和6年8月5日

美里農業改良普及センター



令和6年7月30日（火）に宮城県美里農業改良普及センターを会場として、県農業大学生を対象とした第2回美里地区みやぎ農業未来塾「農大先進農業体験学習に係る普及センター訪問」を開催しました。

今回の未来塾は、9月9日（月）から始まる農業大学校先進農業体験学習をより良いものとなるように、事前学習を実施したものです。

始めに、当普及センター職員から管内の農業概要及び受入先農家の経営概要について説明した後、各受入農家を訪問し、農場の場所等を確認しました。

農大生からは、「将来米農家になりたいので、研修で栽培技術を学びたい」「コミュニケーションを大切に研修に臨みたい」といった意気込みが聞かれ、先進農業体験学習への意欲が高まったようでした。

普及センターでは、農業大学校生の体験学習が充実したものになるよう、受入農家と協力しながら支援していきます。

○アグリレディーズネットとめの学習会を開催しました

令和6年8月6日

登米農業改良普及センター



令和6年7月30日（火）、美里町の菜園レストラン「野の風」において、アグリレディーズネットとめの学習会を開催し、女性農業者7名が参加しました。

この学習会は、登米市内の女性農業者に担い手として力を発揮していただき、農業政策に女性の声が反映されるようにするために、「学び、交流し、お互いを高めあうこと」を目的に開催したものです。

登米市では、農業委員が24名中4名、JAみやぎ登米の理事は12名中2名が女性で、目標の3割には達していません。

そこで、今回の学習会では、平成28年度女性の活躍の部最優秀賞、第55回農林水産祭内閣総理大臣賞を受賞された伊藤恵子氏を講師に、女性の経営参画と地域活性化に積極的に取り組む姿を学びました。

参加者7名の内、2名が20歳代、2名が30～40歳代と若い女性農業者が参加してくれたことや、講師

の実体験に基づいたアグリビジネスへの取り組み、役割分担に基づく法人経営の展開、女性の地位向上のための活動など、講演内容が素晴らしかったことから、参加者の評価が高い学習会となりました。

普及センターでは、今後も男女共同参画に向けた取組について支援を行ってまいります。

○美里地区農業士会の第1回研修会並びに通常総会、歓迎会が開催されました
令和6年8月9日
美里農業改良普及センター



令和6年8月1日(木)に、美里地区農業士会第1回研修会が開催され、株式会社デ・リーフデ美里(美里町)と株式会社フローラ平山(大崎市鹿島台)を視察しました。

株式会社デ・リーフデ美里では、バラを栽培していた2haの大型鉄骨ハウスを取得、修繕し、新たに複合環境制御によるトマトの養液栽培を今年の3月から開始し、品種は「富丸ムーチョ」を用い、夏越しと冬越しの作型を組み合わせ、グループ企業3社で通年契約販売するとの説明がありました。

株式会社フローラ平山の代表の平山喬博氏に収穫中の鉄骨ハウスにおいて、「父母の法人を継承し、スプレーギク、輪ギク、トルコギキョウ等の切り花を周年生産している。」土づくりや蒸気等での土壌消毒、土壌分析に基づく施肥設計、養液土耕栽培、複合環境制御装置の利用など省力、高品質安定生産の取り組みを話していただきました。

大規模な環境制御によるトマトの養液栽培とスプレーギクやトルコギキョウ等施設切り花の周年生産の経営戦略を学ぶことができ、大変有意義な研修となりました。

研修終了後、美里町内で開催された令和6年度美里地区農業士会通常総会では、令和5年度事業報告・収支決算、令和6年度事業計画・収支予算案、年会費・納入方法、役員改選の4議案について、原案どおり承認されました。

その後、新任の指導農業士の歓迎会が開催され、自

己紹介と農業士としての抱負があった後、会員同士の交流が深められ、楽しい歓迎会となりました。

普及センターでは関係機関と連携して農業士活動を支援してまいります。

○先進農業体験学習に先立ち普及センター訪問が行われました

令和6年8月13日
仙台農業改良普及センター



宮城県農業大学校では1学年時に県内の先進的な農業者のもと農業体験を行う「先進農業体験学習」があります。今年度、仙台農業改良普及センター管内では9名の学生が先進農業体験学習を行う予定で、これに先立ち学生が当普及センターを訪問しました。

まず学生1人1人から自己紹介があり、自身の目標とする営農の姿や、先進農業体験学習に向けての意気込みが述べられました。訪問した学生の多くは6次産業化や食品加工などに興味があり、顧客ニーズの把握や衛生管理手法についても学びたいと意欲を示していました。

その後、普及センター所長からあいさつを行い、担当者から受入農家の経営概要などを説明しました。説明中、学生は熱心にメモを取り、真剣な様子で臨んでいました。

先進農業体験学習は9月9日に開始式があり、学生は約1か月農業者のもとで農業に関する技術や経営を直接学びます。

普及センターでは、これからも地域農業の担い手確保および育成に努めてまいります。

○令和6年度仙南農業士会総会が開催されました!

令和6年8月15日
大河原農業改良普及センター



宮城県では、技術と経営能力に優れた地域の指導的農業者の方々に指導農業士、青年農業士として認定し、普及センターとの連携のもと、次代の農業を担

う若手農業者等の育成・指導や地域農業の振興に関する助言などの役割を担っていただいています。

大河原農業改良普及センター管内の農業士で構成する仙南農業士会では、令和6年7月25日に研修会及び令和6年度総会を開催しました。

研修会は役員会で要望が出された「Jクレジット」をテーマとし、株式会社フェイガー農業事業開発マネージャーの松谷達馬氏より、「脱炭素化」に向けた世界の動きと水稻中干し延長による温室効果ガス削減について説明いただきました。会員からは、水稻中干し期間の延長が生育に及ぼす影響や作業記録の方法等について活発に質問が出されました。

令和6年度総会では、新任・退任農業士の紹介が行われ、新たに任命された農業士からあいさつを行った後、議事が進められました。令和5年度事業報告並びに収支決算、令和6年度事業計画案等が上程され、全て承認されました。

普及センターでは、今後も農業士活動に対する支援を行ってまいります。

○大河原町の農業者が県内法人への視察研修を行いました！

令和6年8月28日

大河原農業改良普及センター



令和6年8月6日に、大河原町内で地域農業の将来について話し合っている大河原西地区及び大谷地区の農業者19名が、県内の先行事例となる法人へ視察を行いました。

今回は、農事組合法人うえすとファーム仙台（仙台市）、農事組合法人長岡グリーンサポート（岩沼市）、農事組合法人未来ファーム縄文の郷（柴田町）の3法人を訪問しました。

代表者より、法人化の過程や鳥獣害対策、高収益作物となる園芸作物の選定などについて説明を受けた後、意見交換を行いました。集落農地の維持管理を行うための具体的な話を伺い、参加者からは、主に作業の役割分担など法人化後の運営に関する質問が出されました。

大河原農業改良普及センターでは、今後も地域農業の維持・発展に向けた話し合いを支援してまいります。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○アグリテックアドバイザー派遣研修会を開催しました

令和6年8月8日

気仙沼農業改良普及センター

令和6年6月18日、気仙沼市の農業法人1社を対象に、普及センター主催のアグリテック研修会を開催しました。

ヤンマーアグリジャパン(株)からアドバイザーをお迎えし、農作業機械で利用される自動操舵システムの機種、性能、価格の説明と規模や使用目的に応じた機種選定方法等について講義してもらい、その後、具体的な意見交換が行われ、参加者は導入に向けたイメージが整理されたようでした。

県では、アドバイザー派遣のほか、トラクタや田植え機の自動操舵システムを始めとしたアグリテックの推進のため、農業用ドローン等にも活用可能なRTK-GNSS 基地局のサービスを昨年度から提供していますので、御活用ください。

○大衡村の法人でアグリテックアドバイザー派遣を実施しました！

令和6年8月14日

仙台農業改良普及センター



宮城県では、スマート農業技術の導入や効果的な活用に向けて、生産者へ有効な助言・指導を行うアドバイザー（専門家・先進的農業者）を派遣する事業を実施しています。

7月26日に大衡村の法人に対して、近年普及が進んでいるザルビオフィールドマネージャーの活用について、サービス提供元のBASF ジャパン(株)の担当者の方をアドバイザーとして派遣しました。

ザルビオフィールドマネージャーは衛星画像からほ場の地力や生育状況を確認し、AIによるデータ分析を活用し施肥や防除の作業計画を立てるなど、効率的な営農をサポートするシステムです。今回は、システムの特徴や操作方法、効果的な活用方法を担当者の方から実演を交えて解説いただき、法人も今後の活用に弾みがついたようです。

今後も普及センターではスマート農業の普及拡大に向けて支援を行って参ります。

アグリテックアドバイザー派遣制度に興味がある方は、下記 URL のホームページをご覧ください、お近くの農業改良普及センターにご相談ください。

宮城県公式ホームページ「みやぎアグリテックアドバイザー派遣」

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/agritech-adviser.html>

④園芸産地の育成・強化支援

○JA新みやぎ南三陸地域花卉生産協議会の出荷目揃い会が開催されました

令和6年8月1日

気仙沼農業改良普及センター



令和6年7月30日、JA新みやぎ南三陸地域花卉生産協議会主催によるお盆用菊類の出荷目揃い会が集出荷場で開催され、生産者6人、株式会社仙花1人、JA1人、普及センター1人が参加しました。

当日出荷された輪ギクの出荷箱からサンプルを取り、花の咲き具合、病害の有無等について、株式会社仙花の担当部長から「花が咲きやすい品種、咲きにくい品種があり、品種に合わせた収穫を心がけてください」とのアドバイスのほか「全国的な情報としては、高温により出荷が前進化すると聞いていたが、実際には前後に分散している様子。熱中症に気をつけて出荷作業を頑張ってもらいたい。」と他産地の情報提供や激励がありました。

普及センターでは、今後とも管内花き産地の販売額向上を支援していきます。

○仙台市内で加工用ばれいしょが収穫期を迎え、掘り取りが始まりました！

令和6年8月2日

仙台農業改良普及センター



仙台市内の加工用ばれいしょの収穫作業が7月16日から始まりました。今年は天候に恵まれ、昨年より

9日早い収穫開始となりました。収穫を行ったのは、農事組合法人福鶴ファームで、令和4年から転作作物の一つとして栽培に取り組み、年々作付面積を拡大し、今年は6.1haで栽培しています。

生産者は、昨年導入した収穫機械に乗車して、丁寧に選別作業を行っています。収穫したばれいしょは、鉄のコンテナに入れて、契約先のカルビーポテト株式会社へ出荷されます。

法人の担当者は、「これまでの栽培経験に加え、排水対策や病害虫防除等を徹底したことで、過去最高の収穫量が見込める」と話していました。来年はさらに面積を増やし、10haを目指すと言っていました。

普及センターでは、水田を活用した露地野菜等の導入を支援し、経営安定化に向けた取組を支援していきます。

○JA みやぎ登米にら部会現地検討会が開催されました

令和6年8月2日

登米農業改良普及センター



令和6年7月8日に、JAみやぎ登米にら部会現地検討会が開催され、部会員13名が参加しました。

現地検討では中田町のにら生産者ほ場を巡回し、生育状況や今後の防除などについて確認しました。普及センターからは、昨年度、夏季の高温乾燥の影響により収量が低下した生産者が多かったことから、品質を落とさないよう病害虫（特にアザミウマ類）の管理や高温に対する技術対策について説明しました。

普及センターでは、安定したにら生産ができるよう継続して支援していきます。

○JA 新みやぎあさひなねぎ部会現地検討会と若手生産者情報交換会が開催されました！

令和6年8月5日

仙台農業改良普及センター





令和6年7月19日にJ A新みやぎあさひなねぎ部会で現地検討会が開催され、部会員40人が参加しました。

検討会は、大和町の部会員2人のほ場を巡回し、ねぎの生育や病害虫の発生の状況について確認しました。また、普及センターが発行した栽培管理情報誌を配布し、今後発生の増加が予想される「白絹病」や「ネギハモグリバエ」の病害虫防除、高温期における栽培管理の注意点などについて説明しました。

現地検討会終了後に、普及センターが主催して情報交換会を開催し、若手生産者5人を中心としたネットワークづくりを支援しました。情報交換会は、若手生産者2人のほ場を巡回し、課題となっている雑草の除草に対する対応方法や、施用している肥料、効果の高いと感じている殺虫・殺菌剤などについて情報を交換しました。若手同士では場を実際に見て課題や意見を交換することで、相互研鑽が図られました。

普及センターでは、引き続き、若手生産者の栽培技術の向上とネットワークづくりを重点的に支援し、地域農業の担い手育成に取り組んでまいります。

○トマト病害虫及び高温対策研修会を開催！

令和6年8月6日

石巻農業改良普及センター



令和6年7月30日（火）にJ Aいしのまき情報センターにて、J Aいしのまきと石巻農業改良普及センターの共催で、トマト病害虫及び高温対策研修会を開催しました。生産者や関係機関など22人が参加しました。

研修では、農業・園芸総合研究所の研究員を講師に、トマト黄化葉巻ウイルスを媒介するタバココナジラミの特徴や、「入れない」「増やさない」「持ち出さない」といった防除対策の基本などを学びました。

また、普及センターからは夏期の高温による着果不良対策の一つとして、農業・園芸総合研究所での試

験結果に基づくホルモン処理の最適な開花ステージやホルモン処理時のジベレリンの加用による着果率の向上について講義を行いました。

今後も、トマトの安定生産に向けて関係機関一体となって支援していきます！

○大谷いも栽培講習会が開催されました

令和6年8月8日

気仙沼農業改良普及センター

令和6年6月28日、気仙沼市大谷公民館にて「大谷（おおや）いも生産者の会」の栽培講習会が開催され、講師として参加しました。普及センターからは「そうか病」の防除のほか、土壌改良方法や緑肥作物の効果について説明しました。

参加した生産者からは、種いもの消毒方法や栽培管理についての質問が多く出され、関心の高さが伺われました。

大谷いもは、戦後の東京市場で“日本一”と称されたとの新聞記録が残っており、道の駅大谷海岸の生産者が復活に取り組んでいます。栽培では、定置網に付着した海藻やワカメの下葉、メカブの茎など捨てられる部分を肥料として活用しているのが特徴です。

7月上旬から9月上旬まで道の駅大谷海岸で販売されていますので、是非一度御賞味ください。

○出荷期を迎えポットマムの現地検討会が行われました

令和6年8月15日

大河原農業改良普及センター



「ポットマム」とは、草丈を短く作った洋ギクの鉢仕立てのことを言い、J Aみやぎ仙南柴田鉢花研究会では、5月の母の日向けポットカーネーションの出荷終了後、施設内を一斉にポットマムに入れ替え、7月から10月まで長期にわたり出荷を行っています。

当地で生産されるポットマムは、多種多様な花色と花形があり、敬老の日のギフトをはじめ幅広い用途に使える鉢花として市場や量販店等から高い評価を受けています。

出荷が始まったことを受け、7月24日に現地検討会が開催されました。

検討会には生産者・関係機関・市場関係者などが参加し、各作型の生育状況や栽培管理についてアドバイスをしました。普及センターからは、気象経過や高温に対する技術対策、病害虫防除について資料を

用いて説明を行いました。

普及センターでは、今後も良品生産に向け支援を続けて行きます。

○Pear・カレッジ・りふの視察研修会が開催されました

令和6年8月15日

仙台農業改良普及センター



梨の産地で知られる利府町では、生産者が梨栽培の技術交流や会員交流の場として「Pear・カレッジ・りふ」が組織されています。

今年、Pear・カレッジ・りふでは、令和6年7月25～26日に新潟県新潟市江南区の佐藤梨園において、江戸時代から続く梨産地の栽培状況や栽培技術を学ぶとともに、利府町内の梨生産者の親睦を深めるため、視察研修会を開催しました。新潟市内の他の若手生産者も参加していただき、産地間交流を深め、にぎやかな会となりました。

研修会では、佐藤梨園の園主より地域の栽培概況や出荷販売状況等の説明を受け、利府の生産者からは利府町内の栽培状況等を説明し、お互いの情報交換を行いました。

同じ梨栽培でも品種構成や栽培方法が異なり、どちらの生産者にも驚きがありました。なにより新潟の若手生産者の梨生産にかける熱意に刺激を受け、自分たちも頑張ろうという気持ちになったようです。今後も普及センターでは、引き続き次世代の若手梨農家の支援を続けてまいります。

○亶理名取りんご栽培研修会を開催しました

令和6年8月21日

亶理農業改良普及センター



令和6年8月20日に亶理名取りんご振興協議会（事務局：当普及センター）主催で会員の相互交流を目的に亶理名取りんご栽培研修会を開催し、会員26人の参加がありました。この研修会は毎年開催していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響等で令和元年以来5年ぶりです。

当普及センターからは、気象経過、生育状況及び高温対策について情報提供しました。

会員の名取り市高館のりんご園地の視察では、経営概要を御紹介していただき、生育状況について情報交換を行いました。園主の板橋氏は、結実、果実肥大は順調であるが、今後も高温が続くと、果実の日焼け、着色不良、果肉障害の影響が出ないかを心配していました。

その後、宮城県農業・園芸総合研究所へ移動し、果樹チームの研究員を講師にりんごほ場を視察し、主要品種の生育状況、りんごジョイントV字樹形栽培、品種の特徴等について説明がありました。参加者から、栽培適応性試験中の品種の特性についての質問が多くあり、今後の栽培品種選定の参考としていました。

当普及センターでは、品質の高いりんご生産に向けて、栽培管理及び病虫害防除の支援を行ってまいります。

○「若手果樹生産者の相互園地視察」を開催しました！

令和6年8月26日

大河原農業改良普及センター



令和6年8月6日に「若手果樹生産者の相互園地視察」を丸森町、角田市、大河原町、蔵王町の4市町で開催しました。

この相互園地視察は、当普及センターが取り組んでいるプロジェクト課題「果樹産地の維持・発展に向けた若手果樹生産者を中心としたネットワーク構築」の活動として開催したものです。

各市町の園地を視察し、園主に園地を案内いただきながら植栽品種の説明等の説明を受けました。また、一部の園地においては、作業場や選果機の見学も行いました。

市町を超えて果樹園地を視察する機会は貴重なため、参加者は興味津々な様子でした。さらに、参加者と視察先の園主が同年代であったため、視察中には、園主への質問やお互いの栽培方法に関する活発な情報交換が行われました。

普及センターでは、果樹産地の維持・発展に向け、引き続き若手果樹生産者への支援を続けてまいります。

○JA新みやぎあさひなぶどう部会で秋田県ぶどう生産者の視察対応を行いました

令和6年8月28日

仙台農業改良普及センター



令和6年8月19日に秋田県鹿角市「鹿角ブドウ栽培研究会」の会員11名が宮城県大和町に視察研修のため来県され、JA新みやぎあさひなぶどう部会の瀬戸副部長宅のハウスで対応しました。

鹿角ブドウ栽培研究会では、水稻育苗ハウスを活用した「シャインマスカット」の栽培が始まったばかりとのことで、同様の栽培を行っている本県の温度管理や水やりの仕方、施肥等について「シャインマスカット」を栽培しているハウスの中で説明しました。

ハウスの中には大房の立派な「シャインマスカット」がたくさん実っており、訪れた会員は「みごとな房だ」と感心していました。また、技術的な質問だけではなく、販売先や単価などの質問も出され、園主である瀬戸副部長から丁寧に回答していただきました。

○加工用ばれいしょ収穫終了と管内生産者パッケージのポテトチップス販売

令和6年8月28日

登米農業改良普及センター



登米地域では、7月16日から加工用ばれいしょの収穫作業が始まり、降雨の影響により作業の遅れもありましたが、8月末に収穫作業が終了する見込み

です。

今作は、去年一昨年と大きな被害をもたらした収穫期の豪雨が無く、高温による徒長などの影響は見られましたが概ね順調に生育が進みました。

8月5日からカルビー株式会社より登米ぼてと組合の組合員パッケージになっているポテトチップスがスーパー等で発売されており、宮城県での加工用ばれいしょ栽培について、県内外での知名度向上が期待されます。

普及センターでは、今後も引き続き、加工用ばれいしょの栽培及び生産体制支援を行っていきます。

○令和6年度加美郡りんご協議会先進地視察研修会

令和6年8月29日

大崎農業改良普及センター



加美郡内のりんご生産者14名で組織する加美郡りんご協議会は、毎年研修会や先進地視察などの調査・研究活動を精力的に行っています。これら活動の一環として、令和6年8月22日に先進地視察研修会を開催しました。

最初の視察先の福島県農業総合センター果樹研究所では、福島県育成品種や最新の試験研究成果について、2か所目の亘理町結城果樹園では、夏期における新梢管理などのお話をいただきました。

今回の研修会には会員14名の参加がありましたが、今後の栽培管理を行う上で大変参考となる情報をいただくことができました。

普及センターでは、今後もりんごの生産振興に向け、協議会活動の支援を行っていきます。

○「美里町北浦梨フェア 2024」が開催されます！
令和6年8月30日
美里農業改良普及センター



美里町は県内有数の日本なし産地で、「北浦梨」は大正時代から続く特産品です。

天候に恵まれ、大きくて甘い北浦梨の収穫が順調に始まっており、11回目の「美里町北浦梨フェア 2024」が、令和6年9月1日（日）から9月30日（月）まで開催されます。

今年は、フェア参加農産物直売所・スーパー等 20か所（美里町内 17 店舗、大崎市・涌谷町の3店舗）での北浦梨販売に加えて、美里町内3店舗で北浦梨を使用した料理・スイーツが提供・販売されます。また、参加店舗で開催期間中にもらえるスタンプを3つ集めると、美里町の特産品が抽選で当たるスタンプラリーに応募することができます。

また、「社会福祉法人みんなの輪 わ・は・わ美里」では、通年で北浦梨を味わうことができる冷凍ピューレを製造・販売しています。まだまだ暑さが続く今の時期は、冷凍したままシャーベットやかき氷で味わうもよし、ゼリーやジャムを作ってヨーグルトやアイスクリームとあわせるもよし、ちょっとスパイシーな夏野菜カレーの隠し味に加えるもよしです。自分だけの「北浦梨」料理をつくってみてはいかがでしょうか？

フェア及びピューレに関する詳細は、「美里町北浦梨フェア 2024」ウェブページをご覧ください。

<https://www.town.misato.miyagi.jp/12kanko/nashifair2024.html>

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○色麻町乾田直播研修会が開催されました
令和6年8月5日
大崎農業改良普及センター



令和6年7月29日に古川農業試験場と大崎市内の現地圃場を会場に、色麻町乾田直播研修会が町農業者振興連絡会の主催で開催され、町内の法人等認定農業者及び町、JA等の関係機関約30人が参加しました。

初めに、農研機構東北農業研究センターから水稲乾田直播のメリットや技術のポイントについて、次いで、県古川農業試験場から県内の水稲乾田直播の状況と試験研究成果についての講演をいただきました。その後、全農宮城県本部から全農みやぎが取り組む乾田直播普及のための実証圃についての説明がありました。

また、講演後には古川農業試験場の試験圃場や（農）アグリ高倉に設置された東北農業研究センターの実証圃を見学しました。

参加者からは、肥料や雑草防除、コストなどについて多くの質問がありました。

普及センターでは、今後も国や県の研修成果の現地普及の橋渡し役として、このような研修会の開催を支援していきます。

○飼料作物展示ほの巡回検討会が開催されました
令和6年8月5日
気仙沼農業改良普及センター



令和6年7月25日、県内9普及センターの飼料作物展示ほ（稲 WCS 及び飼料用トウモロコシ）を巡回し、生育状況の確認や今後の管理について検討する巡回検討会が気仙沼からスタートしました。

気仙沼の展示ほは、たい肥を連年施用して継続的に稲 WCS を栽培しているほ場であり、周辺の主食用水稲に比べて葉色が非常に濃くなっていました。昨年は、例年より1か月早い8月下旬に収穫し、10月

に再生穂の WCS を収穫されていたため、今年度は 10 月収穫分の WCS の栄養価を測定することとしました。また、今年度は衛星画像を用いたほ場診断を試用しており、そのデータを用いて今後の出穂等の調査と合わせ有効活用できるかの検討も行っていくこととしました。

普及センターでは、今後も適期収穫の指導，給与技術指導や耕畜連携の推進をしていきます。

○管内各地区で大豆栽培現地検討会が開催されました

令和6年8月6日

美里農業改良普及センター



美里管内は大豆栽培が盛んな地域で、約 1,800ha 作付けされ、収量・品質ともに高いレベルを誇ります。

今年度は播種時期に晴天が続いたことから作業が順調に進みましたが、一方では場の乾燥が進み、大豆の出芽が不ぞろいになってしまったほ場も見られました。

このような中、JA 新みやぎは、「大豆の生育を生産者相互で確認し、今後の作業に活かしていこう」という考えから、管内各地区で大豆栽培現地検討会を開催しました。

検討会では、生産者と共に現地ほ場を巡回して、大豆の生育を確認するとともに、現在の生育ステージにおける栽培管理のポイントを普及センターから説明しました。

今年度は播種時の乾燥などで碎土率が上がりやすく、播種深の調整に例年以上に気を使ったようです。出芽後の気温が高いことから生育スピードが速く、5 月下旬播種のほ場では既に開花が始まっていました。また、各地とも大豆の葉を食害するチョウ目害虫の発生が確認され、検討会では追加防除を検討する方や、既に防除を実施したという方もいました。

普及センターでは、市町村及び JA と一体となって各種調査や検討会を通じて大豆の収量や品質向上に向けた活動を継続していきます。

○高品質大豆の生産を目指して現地検討会が開催されました

令和6年8月9日

登米農業改良普及センター



登米市内では、水田の転作作物として約 1300ha の大豆が栽培されています。

高品質大豆生産を目指し、7 月下旬に各地区で現地検討会が開催されました。このうち、7 月 22 日開催の石越地区では生産者約 10 名が出席し、9 カ所のほ場を巡回しました。

高温で推移した影響で、タバコガ等の食害がやや多く見られたほか、6 月中旬の少雨で出芽が遅れたほ場もありましたが、その後の降雨により出芽し、5～6 葉程度まで生育していました。

普及センターからは、除草剤は雑草の種類と葉齢を確認して散布すること、可能なら開花期前にもう一回中耕培土を実施してほしいことなどを説明しました。

普及センターでは、今後も高品質大豆の生産について支援を行ってまいります

○米づくり推進気仙沼地方本部による水不足対策会議及び視察研修会を開催しました

令和6年8月9日

気仙沼農業改良普及センター



令和 6 年 7 月 17 日に米づくり推進気仙沼地方本部が主催する農業用水不足に関する対策会議及び技術指導部会の視察研修会を涌谷町で開催しました。

農業用の水不足に関する対策会議では、気仙沼管内の農業者に技術対策を広く周知するために地元新聞社を通じ新聞記事としてはどうかとの提案を受け、さっそく地元三陸新報社に相談したところ、20 日の 1 面記事として掲載されました。

視察研修では、地域ぐるみで環境負荷低減の取組を行う特定区域（モデル地区）に認定されている涌谷町の取組について説明を受けた後、町内に整備した完熟たい肥のストックヤード付近の環境保全米の作付けを行っているほ場も現地視察しました。県では、関係者と連携してみどり戦略の取組を支援してまいります。

○令和6年産大豆防除会議が開催されました
令和6年8月9日
登米農業改良普及センター

令和6年7月26日に豊里地区の令和6年産大豆病害虫防除会議が開催され、生産者、防除メーカー、JAが出席しました。

普及センターからは大豆の栽培管理と病害虫防除のポイントについて説明しました。最近では急な豪雨となることがあり、明渠が排水溝につながっているか、ごみなどが詰まっていないかを再確認してもらうよう説明しました。また、今年は平年よりも気温が高く推移し、害虫による葉の食害被害が多く発生していたことから、防除の日程を検討し、前年よりも早く行う予定となりました。

普及センターでは、今後も登米管内の大豆の収量と品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

○農地整備事業実施地区を現地視察 目標達成に向け連携強化！
令和6年8月13日
石巻農業改良普及センター



令和6年8月6日、東部地方振興事務所農業農村整備部と石巻農業改良普及センターで、現在、東松島市で農地整備事業実施中の「西小松地区」及び「深谷東地区」を視察しました。

農業農村整備部から、両地区の面工事の進捗や今後の計画、農地の集積・集約化、担い手の状況等について説明があったほか、立ち会っていただいた両地区の農業者からは、事前転作等の営農状況や高収益作物の導入についてお話がありました。

両地区においては、法人化による担い手の確保・育成や農地の集積・集約、高収益作物の導入と生産の安定化など取り組むべき課題を有していることから、普及センターでは農業農村整備部と連携しながら、目標達成に向けて農業者を支援してまいります。

○「良質米の敵!」斑点米カメムシのすくい取り調査を実施しました
令和6年8月21日
登米農業改良普及センター



今年は高温で斑点米カメムシの発生が早まっていますが、登米市内各地区では、8月2日から水稲の斑点米カメムシ防除が実施されています。

防除に先立ち、迫稲作経営部会では斑点米カメムシのすくい取り調査を実施、普及センターも参加しました。当日は3班に分かれ、各班5筆ずつすくい取りを実施し、その後カメムシの頭数と種類を確認しました。

宮城県で最も発生が多い「アカスジカスミカメ」の他、それよりやや大きいカメムシ類も複数種確認されました。出席者は防除の必要性について改めて認識するとともに、次回のすくい取りは防除終了後に実施し、防除効果を確認することで了解されました。

普及センターでは、今後も良質米生産について支援を行ってまいります。

⑥時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

○令和6年度登米市畜産共進会が開催されました
令和6年8月2日
登米農業改良普及センター



令和6年7月4日に第17回登米市畜産共進会が、JAみやぎ登米南方農畜産物集出荷場で開催されました。登米市は肉用牛の生産が盛んな地域で、これまで宮城県総合畜産共進会において多くの優れた肉用牛が上位入賞を果たしており、この共進会も宮城県総合畜産共進会に向けた重要な前哨戦となります。

今回の共進会では、肉用牛若雌1区から同父系群までの5区に延べ61頭が出品され、日頃の改良や飼養管理の成果を競い合いました。出品牛は、発育・体積に加え、均称にも優れており、甲乙付け難く、生産農家の日頃の努力が伺えました。

今回入賞した生産者は、大会長である市長から激励の言葉が贈られ、9月6日(金)～7日(土)に開催される宮城県総合家畜共進会へと臨みます。

普及センターでは、今後とも関係機関と連携し、優良家畜生産を支援してまいります。

2. 持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○登米地区農村生活研究グループ連絡協議会グループ員研修会を開催しました 令和6年8月6日 登米農業改良普及センター



令和6年7月29日、登米合同庁舎5階会議室で、登米地区農村生活研究グループ連絡協議会員を対象としたグループ員研修会「家庭で余った野菜等の活用法」を開催し、女性農業者8人が参加しました。

この研修会は、会員相互の交流と資質向上を図ることを目的として開催したもので、令和6年度の会員数は28人となっています。

毎年、コンニャクを会員の共通テーマに研修会を開催してきましたが、今年度は、役員会において会員が自宅で生産している野菜等が必ず余るので、これを保存・加工などして活用していきたいと、意見が出され、元普及指導員で登米市在住の佐藤氏に講師を依頼しました。

研修会では、参加した会員全員から、それぞれの保存や加工方法などを発表してもらい、講師にアドバイスをいただき、充実した研修会となりました。

普及センターでは、今後も女性農業者の活動を支援してまいります。

○色麻町でえごま販売に係る講習会が開催されました 令和6年8月7日 大崎農業改良普及センター



色麻町えごま栽培推進協議会では、他産地との差別化を図るため、昨年度から化学肥料を使わない栽培に取り組んでいます。今年度も、町内で手に入りやすい鶏ふん堆肥を使用した栽培を推進するとともに、さらなる販路拡大に向け、生産拡大や品質向上への

取組が進められています。

令和6年8月6日に開催された講習会では、えごまの出荷・販売の注意点等について、買取会社から講話がありました。会員からは、出荷時のえごま種子の水分量や水洗い方法についての質問があり、さらなる品質向上に向けて熱心に話を聞いていました。

普及センターでは、今後も協議会と連携し、えごま栽培技術支援を行ってまいります。

○亘理町で地域計画策定に係る協議の場が開催されました 令和6年8月16日 亘理農業改良普及センター



亘理町では、7月29日から8月6日にかけて認定農業者、農政推進員、農業委員等が参加し、地域計画策定に係る協議の場が開催されました。

昨年開催した協議の場やアンケート調査で出された地域農業に対する意見を反映させた地域計画（案）、アンケート調査で地権者と耕作者の意向がマッチングした農地を反映させた目標地図（案）を提示して話し合いを行いました。

出席者からは、「集積を進めるには、出作・入作の整理が必要」、「地権者と耕作者の話し合いを進めるべきではないか」などの意見が出されました。

町では、今回提示した地域計画（案）と集落ごとの目標地図（案）を農政推進員を中心に各集落に持ち帰り検討をし、その結果を町に提出してもらい、地域計画と目標地図を取りまとめることとしています。

普及センターでは、亘理町が年内に地域計画が策定できるようにその取組を支援していきます。

○地域計画策定に係る話し合いが山元町で開催されました 令和6年8月20日 亘理農業改良普及センター



令和6年8月9日、山元町において「第2回 地域計画策定に係る話し合い」が開催されました。

話し合いには、地域の担い手や農業委員、農地利用最適化推進委員が参加しました。始めに、これまでの取組状況が報告され、今後のスケジュールなどについて説明があった後、参加した担い手や関係者が3グループに分かれて協議を行い、目標地図（素案）の作成が行われました。協議では、地区の農業委員が進行役を務め、アンケート結果が反映された現況地図を基に、将来の農地利用について活発に話し合いが行われ、その結果として将来の利用イメージの地図への色塗りが進められました。最後に、各グループから目標地図（素案）の発表がありました。

山元町では、今後、目標地図を含め地域計画（案）の説明会等を行う予定です。

普及センターでは、「地域計画」の策定に向けて引き続き支援してまいります。

○地域計画策定に係る協議が開催されています 令和6年8月22日 気仙沼農業改良普及センター



農業経営基盤強化促進法等の一部を改正する法律が施行され、市町村は令和7年3月までに将来の地域農業の姿を描いた「地域計画」を策定することになりました。当管内では、気仙沼市が7地区、南三陸町が4地区で計画を策定する予定で、昨年度から各地区ごとに説明会や協議の場が設けられ議論を重ねてきました。

今年度は、昨年度に出た意見をまとめて地域計画の素案を作成し、それに基づき更に協議を行い地域計画が策定されます。

気仙沼市では、令和6年7月2日及び7月23日に「小泉地区」から素案を基にした協議を開始しました。今後、参加者から出た様々な意見を取り入れ、計画をブラッシュアップしていくこととなりました。

県では、計画策定が円滑に進むよう、市町に継続した支援を実施していきます。

○塩竈市寒風沢島の農業の維持・発展に向けて 令和6年8月23日 仙台農業改良普及センター



塩竈市の浦戸諸島寒風沢島は、市内で唯一の農地がある島です。

普及センターは、島で稲作に取り組んでいる農業者を訪問し、今後の営農方針についてお話を伺いました。島では水源が天水のみのため、梅雨時期の降水を利用した独自の水管理を行っています。

島内の農地は、現在3人の生産者により管理されています。今年も島の水田には水稻が作付けされ、訪問した時には穂揃い期を迎えていました。島内の生産者である加藤氏、外川氏にお話を伺ったところ、「今年は例年よりも早く出穂した」とのことでした。収穫されたコメの一部は、塩竈市の酒蔵の（株）佐浦様が醸造する日本酒の原料となるとのことでした。

加藤氏は、今後も島の歴史ある稲作を継続しつつ、新しく栽培品目を増やしたいと意欲を示していました。

また、島では農業体験の受け入れも行っており、外川氏の経営する民宿「外川屋（とがわや）」では島内産の農水産物を提供しています。お客様が多い日は、加藤氏も手伝っておられます。今後、農水産体験の受入も拡大し、島への交流人口増加を図りたいと考えていらっしゃるそうです。

普及センターでは、地域農業の維持・発展について今後も継続して支援していきます。

○米麴を使ったワークショップの開催について
令和6年8月29日
仙台農業改良普及センター



(農) 仙台イーストカントリー(仙台市若林区)では、自ら生産した米と大豆を原料として味噌の加工販売に取り組んでおり、昨年度、県のみやぎのキラリ輝く女性応援事業を活用して導入した「麴発酵機」を使って、蒸した米に麴菌を繁殖させた米麴を独自に製造し、全て自家生産した材料の味噌を製造しています。米麴は、発酵食品を製造するために欠かせない材料であり、近年は、麴を使った食品の栄養面や機能面で注目が高まっています。そこで、米麴の認知度向上と販売拡大に向けて、塩麴づくりや米麴の活用方法を学ぶワークショップを8月18日に開催しました。ワークショップに参加した方々からの評価が高かったことから、来年度より夏季(6～8月)に定期開催する計画です。

普及センターでは、各種の補助事業の活用や専門家派遣などを組み合わせながら、6次産業化の取組を引き続き支援してまいります。

○地域計画策定推進に向けた情報交換会を開催しました
令和6年8月30日
仙台農業改良普及センター



令和6年7月29日に、管内の市町村、関係機関が一堂に会して、地域計画策定に係る進捗状況等の情報共有をするため、地域計画策定推進に係る情報交換会を開催しました。

この会議では、地域計画策定に向けた協議の状況や将来の農地利用の姿を示す目標地図の作成状況等について各市町村から説明をいただくとともに、他地域の事例紹介や今後のスケジュール、確認事項等について、県農業振興課等の関係機関から情報提供を行いました。また、地域計画の作成や手続き等の課題について意見交換を行い、解決策の共有を図りま

した。

普及センターでは、今年度中の地域計画策定に向けて、引き続き支援してまいります。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.211

発行日:2024年9月19日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp